



## 警告のニューズレター「角笛」

発行日:2016年5月発行(第73号)

発行:警告の角笛出版

価格:フリーペーパー

角笛 HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

### [目次]

◎巻頭メッセージ:「蘇るバビロン帝国」 エレミヤ

◎証:「土曜日の集会で教えていただいたこと(2)」 E3

◎お知らせコーナー:「本の紹介」「日曜礼拝&HPのご案内」

### [巻頭メッセージ]

#### 「蘇るバビロン帝国」

by エレミヤ

今回は「蘇るバビロン帝国」として、このことを見ていきたいと思えます。バビロンは古い昔に存在した国であり、現在は全く存在していません。このことは、たしかにそうなのですが、しかし、どうも聖書は終末の日にバビロンが蘇ることを預言しているように思えるのです。このことを見ていきたいと思うのです。

#### <黙示録にはバビロンの名前が出現する>

終末を預言する黙示録には突然のように「バビロン」の名前が登場します。以下の通りです。

#### [聖書箇所]ヨハネの黙示録 17:4,5

17:4 この女は紫と緋の衣を着ていて、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものや自分の不品行の汚れでいっぱいになった金の杯を手に持っていた。

17:5 その額には、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン。」という名であった。

このこと、バビロンの名前が黙示録に出現することから、どうも、終末の日において、「バビロン」という名前は重要なキーワードになる、

そのようにも考えられるのです。

#### <バビロン帝国は7つの時を経て蘇る?>

旧約聖書のダニエル書を読むなら、この書は、バビロン帝国が7つの時を経ていずれ、蘇ることを預言しているようにも思えます。以下の箇所を見てください。

#### [聖書箇所]ダニエル書 4:24-26

4:24 王さま。その解き明かしは次のとおりです。これは、いと高き方の宣言であって、わが主、王さまに起こることです。

4:25 あなたは人間の中から追い出され、野の獣とともに住み、牛のように草を食べ、天の露にぬれます。こうして、七つの時が過ぎ、あなたは、いと高き方が人間の国を支配し、その国をみこころにかなう者にお与えになることを知るようになります。

4:26 ただし、木の根株は残しておくと命じられていますから、天が支配するということをあなたが知るようになれば、あなたの国はあなたのために堅く立ちましょう。

この後、バビロンの王はダニエルのことば通り、人間の中から追い出され、獣のような有様になり、7つの時を過ぎました。正気を失ってしまったのです。しかし、その後、彼に理性が戻り、王の座に戻りました。

# 蘇るバビロン帝国 エレミヤ

このことは不思議なことであり、神の語られた預言が間違い無く成就することを示します。このことは事実です。しかし、この出来事の意味合いは、単に一人の王の経験を語っているというだけとは思われません。それ以上の意味合いのある出来事だと思えます。聖書は表にも裏にも文字の書かれた書であり、神の知恵によって書かれた書だからです。

ですので、この記述は一面バビロン王個人の経験を語っているのですが、それにとどまらず、バビロンという最初の世界帝国の未来を語る預言でもある、そのように理解出来るように思えます。

それは、バビロンという特別な国の未来を語る預言なのです。すなわち、バビロンという国は、歴史から全く消滅したように思えますが、しかし、この国の根株は残る、と言われております。すなわち、バビロン国は7つの時を経て、終末の日に蘇る、そのことを預言した記述であるように思えるのです。

## <黙示録もバビロンが蘇る日を預言する>

バビロン帝国が7つの時を経て蘇る？とは、聞いたことのない話だと思うかも知れませんが、私の理解が間違えてなければ、黙示録もその日を預言しているように思えます。このことを見てください。

[聖書箇所]ヨハネの黙示録 17:7,8

17:7 すると、御使いは私にこう言った。「なぜ驚くのですか。私は、あなたに、この女の秘義と、この女を乗せた、七つの頭と十本の角を持つ獣の秘義とを話してあげましょう。

17:8 あなたの見た獣は、昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます。そして彼は、ついには滅びます。地上に住む者たちで、世の初めからいのちの書に名を書きしるされていない者は、その獣が、昔はいたが、今はおらず、やがて現われるのを見て驚きます。

ここでは、終末の主役である七つの頭と十本の角を持つ獣、すなわち、終末の獣大国について書いてあります。そして、その国を描写し

て、「あなたの見た獣は、昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます。」と語っています。

すなわち、この獣の国とは、黙示録を書いたヨハネの時代を基点に、

- 1.ヨハネの時代以前に存在した昔の帝国である。
- 2.しかし、今、すなわち、ヨハネの時代には存在していない。すなわち、この国の根株だけしか残っていない。目に見える国としては存在しない。
- 3.だが、未来の時代においては、この国は再度目に見える大国として出現する。すなわち、根株から木が蘇り、大木、大国となって終末の日に出現する。

このようなことが語られているのです。そして、この終末の獣の国に関する預言は、まさに上記ダニエル書の預言、7つの時を経て蘇るバビロン帝国に関する預言と符合し、マッチするように思えるのですがどうでしょうか？



獣のようになり、7つの時を過ごすバビロン王

## <7つの頭の意味合い>

この終末の獣は、7つの頭と10本の角を持つことが書かれています。この7つの頭の意味合いを考えて見ましょう。黙示録は7つの頭に関してこう述べます。

# 蘇るバビロン帝国 エレミヤ

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 17:9,10

17:9 ここに知恵の心があります。七つの頭とは、この女がすわっている七つの山で、七人の王たちのことです。

17:10 五人はすでに倒れたが、ひとりは今おり、ほかのひとは、まだ来ていません。しかし彼が来れば、しばらくの間とどまるはずで

この箇所から、7つの頭とは、すなわち、終末の獣の国に影響を及ぼす過去の7つの大国を指すことが分かります。「ひとりは今おり」との記述から、ヨハネの時代の世界帝国であるローマがその7つの帝国の一つであることが分かります。

「五人はすでに倒れたが」との記述から、そのうち5つの帝国はヨハネの時代以前に存在した帝国であることが分かります。具体的にはローマ以前の帝国であるバビロン、メディアとペルシヤ、ギリシヤなどが含まれるので

なぜ、この獣の国には7つの頭がある、などと書かれているのでしょうか？私にはこう思えます。

聖書は、この終末の獣の国が単純な国ではなく、歴史的には過去の7つの帝国の影響を受けている国である、それを表現するために、「7つの頭を持つ獣」と書かれていることが分かります。以下の記述もこの獣の国が過去の帝国の影響を受けていることを語ります。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:2

13:2 私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口はししの口のものであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。

ダニエル書7章を参照するなら、「ひょう」はギリシヤ、熊はメディアとペルシヤ、「しし」は、バビロンを指すことが分かります。すなわち、この終末の獣の国はこれらの過去の帝国の影響や性質を受けた国であることが、ここで描かれているのです。

## <7つの頭は7つの時をも指す>

聖書はこの終末の獣の国に関して、この国が7つの頭を持っていることを何度も語ります。以下の通りです。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:1

13:1 また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。

このように、この獣の国の頭は1つではなく、7つであることが何度も強調されています。このように語るにより、聖書は、この終末の獣の国が、過去と無縁な新しい国ではないことを語ります。そうではなく、逆にこの獣の国は過去の7つの国と大いに関係していることを語っているように思えます。

そして、もうひとつのことがあります。この過去の7つの国は過去の7つの時代と関係しているのです。すなわち、この獣の国こそ、ダニエル書で預言されていた、7つの時を経て蘇るあの復活したバビロン国である、このことを語るように思えるのです。

## <7番目でありかつ8番目である国>

さて、黙示録はこの獣の国に関してさらに複雑なことを語ります。以下を見てください。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 17:11

17:11 また、昔いたが今はいない獣について言えば、彼は八番目でもあります。先の七人のうちのひとりです。そして彼はついには滅びます。

ここで、この獣の国は7番目であるが、しかし、また、8番目であることが描かれています。7番目であり、かつ8番目？全く謎めいた表現です。どういう意味なのでしょう

## <8は復活の数>

このことを考える際に聖書において、それぞれの数字に意味合いがあることを覚えましょう。

# 蘇るバビロン帝国 エレミヤ

そして、聖書的には「8」とは、復活の数なのです。私たちの主も週の初めの日（7+1）、すなわち8日目に復活されました。また、復活の型である割礼も生まれて8日目に行われます。「8」は復活の数なのです。ですので、8番目の頭はすなわち、7つの時を経て、8番目の時に出現する復活したバビロン帝国と符合するように思われます。

## <獣の国は打ち殺され、その後復活する>

国が死んだり蘇ったりするのか？と思うかも知れませんが、どうもそうなるようです。7番目の国である獣の国が打ち殺されたかという経験をし、かつ奇跡的に蘇ることは、黙示録に記載されています。以下の通りです。

### [聖書箇所]ヨハネの黙示録 13:3

**13:3 その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、**

ここでは、獣の国が打ち殺されたかのような経験をすること、そして、その後、奇跡的に復活することが描かれています。具体的にはどのようなことが起きるのでしょうか？私の思うには、これらのことばが表現していることは、このようなことです。

すなわち、獣の国アメリカが今後、自作自演で壊滅的な打撃を受けることを預言しているように思えます。その日、アメリカの敵国から、（ロシア等の国か？）多数のミサイルがアメリカに向けて発射され、アメリカ全土はどこもかしこも壊滅的な打撃を受けます。

しかし、不思議にも、アメリカはその後、短期の間に回復し、復活するのです。そして、復活したアメリカは他国を逆に軍事的に攻撃するようになります。そして、ついには、アメリカは、全世界を支配する世界帝国として君臨する、それが、予定されているストーリーである、と思われま

なぜ、アメリカはそのような短期間に壊滅的な打撃から回復出来るのでしょうか？

その理由はこの攻撃が自作自演である、仕組みられたものであるからです。壊滅も復活も十分に準備されて行われるのです。それは、9.11テロのように、自作自演なのです。

現在、すでにアメリカには地下に影の政府も存在していますし、また、地下には軍隊も、鉄道網も用意されています。その復活の日への備えはアメリカにおいて、密かに用意されつつあるのです。

## <復活後、アメリカはバビロン国になる>

同じ一つの国であるアメリカが7番目となり、かつ8番目の頭となるのです。アメリカは一人2役を行います。7番目と8番目の区分は壊滅、復活の日です。すなわち、他国からの攻撃で壊滅する前のアメリカは7番目の頭であり、復活後のアメリカは8番目の頭となります。

もしかすると復活後、国の名前が変わり、アメリカからバビロンという名前に国名を改名するのもかも知れません。そして、そのアメリカ壊滅の日に多くのアメリカの人々が滅びるでしょう。その日は、黙示録に淫婦バビロンへの裁きの日として、預言されています。

## <バビロンに嫁いだアメリカキリスト教会>

さて、同じバビロンという名前が黙示録の淫婦にも使われています。以下の通りです。



淫婦バビロンは7つの頭の獣に座す

# 蘇るバビロン帝国 エレミヤ

【聖書箇所】ヨハネの黙示録 17:5

17:5 その額には、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン。」という名であった。

なぜ、この淫婦にもバビロンという名前が使われているのでしょうか？考えてみましょう。

その理由は、私が思うには、この女、教会がキリストではなく、バビロンに嫁いでおり、バビロンの国を夫としているからです。女性は結婚して夫の名前を名乗ります。それで、この淫婦も夫であるバビロンの名前を名乗っているのです。彼女は、自分が夫であるキリストの帰りを待つやもめではなく、別の夫を待つ者であることを自ら公言しています。

【聖書箇所】ヨハネの黙示録 18:7

18:7 彼女は心の中で『私は女王の座に着いている者であり、やもめではないから、悲しみを知らない。』と言うからです。

さらに聖書はこの淫婦、すなわちアメリカのキリスト教会が7つの山の上に座ることをも語ります。以下の通りです。

【聖書箇所】ヨハネの黙示録 17:9

17:9 ここに知恵の心があります。七つの頭とは、この女がすわっている七つの山で、七人の王たちのことです。

このことの意味合いを考えてみましょう。この女が7つの山の上に座ると表現することにより、神は何をこの女に関して語るのでしょうか？私にはこのように思えます。7つの山、7人の王は先ほど見ましたように過去の7つの世界帝国です。バビロン、メディアとペルシャ、ギリシャなどです。これらの国はこの世の国であり、異邦の国であり、また、神に敵対する国です。

これらの国は、それぞれ、獅子、熊、ひょうの人食い獣にたとえられていますように、正しい信仰者を殺すような国々なのです。このことは歴史的に見てもそうです。ダニエルたちが迫害されたのは、バビロン帝国においてですし、

また、エステル記に書かれたユダヤ人虐殺が計画されたのは、メディアとペルシャの国の中です。また、エルサレムの神殿を汚したのはギリシャ国の影響です。

そして、淫婦バビロン、すなわち、アメリカのキリスト教会に関して、それは、これらの異邦の7つの帝国の上に座っていることが描かれています。すなわち、分かりやすく言うなら、アメリカのキリスト教会とは、過去の7つの異邦の国の影響を受けている、そのことが語られているのです。このことは、事実と符合するのでしょうか？

調べるなら、たしかにこのことは事実です。アメリカのキリスト教会においてはバビロンゆかりの錬金術が用いられ、金粉が舞い、歯が金歯になります。そして、それは、神のわざではなく、バビロンのわざなのです。また、ヤベツの祈りを始めとした、バビロンゆかりの魔術が大いに用いられています。また、アメリカの神学校ではギリシャゆかりの科学や理性が大いに尊重され、福音書の奇跡や復活が否定されたりしています。

また、ローマ・カトリック教会においては、文字通り、ローマ国の影響が強く残っています。このように、たしかにアメリカのキリスト教会においては、過去の7つの異邦の帝国の影響が強く影響しており、それらが強調されています。しかし、神はこのことに関して、怒りを発しており、このことに関して神の怒りは積み上がっているのです。

<アメリカのキリスト教会の滅びは預言されている>

アメリカのキリスト教会、それは、私の理解では、聖書の中で非常に特別な存在です。悪い意味合いで、です。何が特別か？と言うと、世界の全ての国の中で、アメリカのキリスト教会の滅びだけは「淫婦バビロン」として、明確に聖書の中で預言されているのです。こんな国はたしかに世界に類がありません。その日、1億人を超える人々が滅びるでしょう。神を恐れ、この方を恐れましょう。

# 土曜日の集会で教えていただいたこと(2) E3

今回は、最近、土曜日の弟子の歩みの集会で、「死んだ者はさばかれる」というテーマで、エレミヤ牧師がおすすめされていたことを、紹介させていただきたいと思います。以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。

【聖書箇所】ヨハネの黙示録11:18

11:18 諸国の民は怒りました。しかし、あなたの御怒りの日が来ました。死者のさばかれる時、あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、また小さい者も大きい者もすべてあなたの御名を恐れかしこむ者たちに報いの与えられる時、地を滅ぼす者どもの滅ぼされる時です。

ここで、「死者」ということばが出てきますが、「死者」とは、ただ単に死んだ人ではないと思います。このことばに関して、同じギリシャ語が使われている箇所がありますので、見てみたいと思います。

【聖書箇所】ヨハネの黙示録3:1,2

3:1 また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。」

3:2 目をさましなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行ないが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。

「生きてるとされているが、実は死んでいる。」とありますように、神さまは、「肉体の生死」のことは、ほとんど重要視しておりません。つまり、「罪」に死んでいることが問題なのです。そういう意味で、神さまは人の名目は見ません。「サルデス」は、以前も話をさせていただきましたように、レムナントキリスト教会では「プロテスタント」と理解しています。

そして、若干厳しい言い方になってしまいますが・・・サルデス、すなわち「『プロテスタントは正しい歩みに入っている』」と書いているけれども、しかしそれは名目である。実際は罪に死んでいる。」ということを書われ

ています。そして、「あなたの行ないが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。」と書かれていますように、神さまが目を留めているのは、「行い」です。「罪」を犯しているかどうか？なのです。

また、生きているか？死んでいるか？ということは、「永遠の命」に通じます。そして、「永遠の命」は、生きている、とされている人が得られます。もし、死んでいるなら、「いのちの書」に名前が記されていないことになります。そして、名目だけ生きていても、実際に死んでいる人は、「いのちの書」から名前が消されている可能性があります。こういった原則が、聖書に一貫して流れています。さらにみことばを見ていきましょう。

【聖書箇所】ヨハネの黙示録20:12,13

20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところから従って、自分の行ないに応じてさばかれた。

20:13 海はその中にある死者を出し、死もハデスも、その中にある死者を出した。そして人々はおのおの自分の行ないに応じてさばかれた。

先ほども申し上げましたように・・・生きていても、実際に死んでいる人はさばかれます。生きていても、実際に生きている人は、「永遠の命」を得ます。そして良い報いを受けます。けれども、神さまの前に、「死者」と見なされてしまった場合に、さばかれてしまいます。つまり、神さまの前には、生きている者&死んだ者の区分があるのです。ここで、2種類の人々について言われています。

- ①「いのちの書」に名前が最後まで記されている人。眠り&罪&死に入っていない人。
- ②「死者」と呼ばれる人。ちなみに「死者」とは、罪とか神さまへの反抗からよみがえっていない人のことです。行いや罪からよみがえっていない人で、復活を経験していません。

# 土曜日の集会で教えていただいたこと(2) E3

たり、よみがえりを求めている人のことです。

「死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところから、自分の行ないに応じてさばかれた。」とありますように、「死者」は「書物」の記録にしたがってさばかれる、ということが言われています。すなわち、情状酌量の余地が無い、ということが言われています。そして、繰り返して申し上げますが、「死者」とは、キリストのよみがえり&復活を経験していない人のことです。しかし、一方、「いのちの書」に名前が記されている人は、記録にしたがってさばかれることはありません。

つまり、「いのちの書」とは、不利なものを消し去るものとも言えるのです。そして、13節に書かれている「死者」とは、「いのちの書」に名前が載っていない人のことです。あるいは、載っていたけれども、消えてしまった人のことです。それゆえに、「死者」として留まってしまう場合に、情状酌量の余地が無い、ということが言えます。ですので、我々は「火の池」に入ることを回避したいと思います。引き続き、見ていきたいと思います。

【聖書箇所】コロサイ人への手紙2:13,14

2:13 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくして死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、

2:14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちが責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。

私たちは「死者」でした。そうすると、行ったすべての罪の代償を払うしかなかったのです。けれども、生かされて、あらゆる悪い債務を無効にしてくださいました。「十字架の復活」を経験するとき、あらゆる債務を無効にしてくださいただけを経験出来るようになります。そして、死者or生きた者として、神さまの前に出るのは随分違います。そのこ

とに関して、さいごに見たいと思います。

【聖書箇所】ピリピ人への手紙3:10-14

3:10 私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、

3:11 どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。

3:12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕えてくださったのです。

3:13 兄弟たちよ。私は、自分はずでに捕えたなどと考えるはしません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、

3:14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をみざして一心に走っているのです。

パウロはどうにかして、「死者からの復活に達したい」と言っているのです。そして、パウロがこのように歩んでいたことがクリスチャンにとり、標準的な歩みだと言えます。ポイントは、「死者からの復活」を求めている歩みです。ですので、間違えても、「死者」に入らないように気を付けていきたいと思います。

以上のことをエレミヤ牧師がメッセージされておりました。よろしければ、このようなこともご理解いただけましたら、幸いに思います。いつも大事なことを語ってくださる神さまに、栄光と誉れがありますように。感謝致します。



「死者からの復活」を願うパウロ

# お知らせコーナー

## ●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



● 定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。

● 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255

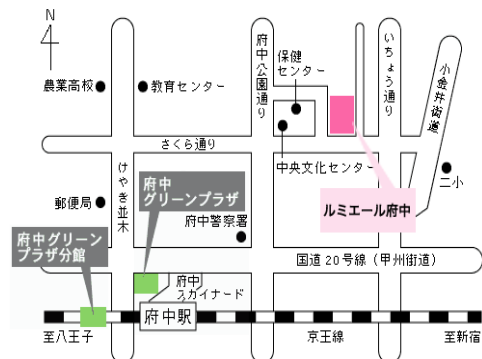
● mail:truth216@nifty.com

## ●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30  
午後 14:00-16:00

場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館  
(tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、  
「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。  
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: [http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)

### ★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、「Yahoo! Japan」で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。  
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

### ☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

### ☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

### ☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

### ☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>